

昭和のkawaiiワールドへようこそ!

没後40年  
松本かつぢ展



「森の精」(松本かつぢ資料館 蔵)

2026年 7/7(火) - 9/27(日)

開館時間 / 午前9時～午後5時

(入館券の販売は午後4時30分までとなります。)

休館日 / 月曜日

(但し、祝日の場合は開館し、翌火曜日を振替休館といたします。)

入館料 / 一般・大学生550円(有料入館者20名様以上は団体料金440円)、高校生230円、小・中学生120円

※障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料(受付で手帳をご提示ください。)

主催 / 新発田市、新発田市教育委員会、落谷虹児記念館

協力 / 松本かつぢ資料館

記念館案内



記念館全景

〒957-0053 新潟県新発田市中央町 4-11-7  
電話・FAX 0254-23-1013

# 昭和のkawaiiワールドへようこそ！ 没後40年 松本かつぢ展

挿絵画家・漫画家として昭和に活躍した松本かつぢは、〈日本のかわいい文化〉の原型ともいえる独特の少女像を描いたことで人気を博しました。抒情的ななかにも明るくかわいい画風のかつぢの描く抒情画は当時の少女雑誌ファンから圧倒的に支持されました。また、抒情画を描く一方、ユーモアタッチの挿絵や漫画にも挑戦し新境地を開拓、昭和13年に少女漫画の先駆け的作品である「くるくるクルミちゃん」を連載開始すると35年もの長期連載となり、クルミちゃんは愛すべきキャラクターとして定着し、次々とグッズ化され、国民的アイドルになりました。

その他にも、異国を舞台にした「名作物語」「絵物語」の挿絵や、子どものための絵本や童画、幼児向けのベビーグッズの企画や制作を手がけるなど、幅広い分野で活躍しました。

様々なタイプの作品を世に送り出しながら、明るさと可愛らしさを追求した松本かつぢは、「少女漫画の元祖」であり「キャラクターグッズの元祖」であり、〈日本のかわいい文化〉の源流となっています。

今年は松本かつぢ 没後40年という節目にあたり、その業績を再評価し広く紹介します。



明治37年(1904)～昭和61年(1986)  
挿絵画家・漫画家・童画家・グッズクリエイター

神戸市生まれ、東京で育つ。立教中学中退。川端画学校でデッサンを学ぶ。中学在学中、家計を助けるために雑誌のカット描きのアルバイトを始める。

昭和初頭、少女雑誌で挿絵画家としてデビュー。エキゾチックで繊細な美少女画で頭角を現す。やがて、抒情的ななかにも、はつらつとした明るさを持つ新しいタイプの少女画を確立し人気を博した。

また、かつぢは落谷虹児に憧れて挿絵画家を志し、さらに虹児の妻・龍子(りょうこ)はかつぢの実妹であるなど、両者は芸術的・家族的に極めて深い関係を持っている。

## 抒情画



「黒い瞳」



「水ぬるむ」



「真夏の夜の夢」



「虹のお城」



「ケティーお嬢さん」

## 童画



花の精「ウキウキ」



「ハームとモニーの12ヶ月」  
8月 ホウズキ



「不思議の国のアリス」



「クルミちゃんサーカス」

※作品はすべて松本かつぢ資料館蔵です。